

平成30年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立谷戸第二学校

●全国学力学習状況調査(小6・中3)

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く	9.1%	既習漢字の読み書きの正答率は高い。 主語と述語の関係に注意して、文章全体の構成を考える力が身に付いている。	正答率の低い設問は、全て記述式のものであった。得た情報の中から必要な情報を目的や意図に応じてまとめる力を伸ばしていく必要がある。
	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べながら考えをまとめる	27.3%		
	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む	40.9%		
算数・数学	①単位量あたりの大きさ	68.2%	数量や図形領域に関する知識・理解面の正答率は高い。表やグラフから変化の特徴を読み取る技能の正答率は高い。	①2量の依存関係から"1にあたる大きさ"を捉える力 ②直径の長さや円周の長さを関係的に捉える力(比例関係) ③2量の依存関係を割合として表し、百分率に置き換え表現する
	②直径と円周の関係	50.0%		
	③割合と百分率	54.5%		
理科	①食塩を水に溶かした時の全量を選択する。	34.2%	知識に関する問題や短答式の問題の正答率は高い。 観察・実験の技能を問う問題の正答率は高い。	①「物を水に溶かしても全体の重さは変わらない。」ことの意味が不十分である。 ②③電流の流れ方そのものに関する考え方や太陽の位置と方角を関連付けて考える問題の意味が不十分である。
	②太陽の1日の位置の変化に合わせてモーターを向きを選択する。	34.1%		
	③回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考える。	53.4%		

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(小5・中2)

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	文章の中に新しい文章を適切な場所に入れる	36%	国語科の学習に対して意欲をもっている児童が多く、主体的に学習に取り組もうとする態度が育っている。話す・聞く力が身に付いている児童が約8割いる。	複数の情報をまとめ、その中から聞かれていることに応じて必要な情報を選び出すこと、情報をまとめることを苦手としている児童が多い。
	一文を二文に書き直す	29%		
	修飾語	21%		
社会	①火災がないときの取り組み	32%	①どの回答も過ちではないため、最もふさわしい選択肢を選べていない。 ②3, 4年生で学習した既習事項を生かしていない。 ③3種類の資料を読み取り、最もふさわしい選択肢を選べていない。	①より正確な答えを導く問題の解き方の理解が不十分。 ②都道府県を覚えるとともに、東京都の23区、市町村の知識が不十分。 ③選択肢の文章を正確に読み取る力が不十分。
	②児童が通っている市町村を探す	27%		
	③資料を読み取り分析する	47%		
算数・数学	①1aの意味(単位換算)	25%	算数に対する関心、意欲は8割強という結果が表れた。日常の学習の様子からそれが感じられる。加点的評価や励ましを続けていく。	①日常的にaを使って表現することが少なく、単位換算する感覚が身につけていない。 ②意味の読み取りが不十分 ③規則性を読み取り、活用していく力が不十分。
	②必要な情報を正確に取り出す力	47%		
	③意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	6.50%		
理科	科学的に考え、正しい選択肢を選ぶ	36%	自然事象への関心・意欲・態度の問う問題の正答率が高く、実際に調べたい事柄をまとめようとするプロセスは、8~9割の児童で身につけている。	複数の選択肢を読み取り、科学的な知識をふまえながら、正しい選択肢を選ぶことが苦手な児童が多い。 授業時数が少ない単元の定着に課題がある。
	星座早見盤の扱い方	37%		
	文章の中にあてはまる正しい語句の組み合わせを選ぶ。	46%		
英語 ※中学校のみ				